

脱皮直後のユミモンヒラタカゲロウ

カゲロウ幼虫は水中で生活する昆虫である。昆虫はサナギに変態するものとサナギにならない(不完全変態)ものがあるが、カゲロウはサナギにはならないが唯一亜成虫というステージを持つ。

ヒラタカゲロウ属は立派なエラを体側に持っているので酸素の吸収がよく活発そうに見えるが、実はエラを自分で動かすことができないので溶存酸素が多くて流れの速い川にしか住めない。水の流れを体に当てて酸素を吸収するのである。できるだけ流れの速いところに棲みたいので体は扁平となり石にしがみついて生活をする。汚れの無い川の指標生物たる所以である。

ヒラタカゲロウ科で尾が2本なのはヒラタカゲロウ属7種とオビカゲロウ属(オビカゲロウ属は1種のみ)のみなので同定は比較的やさしい。ヒラタカゲロウ属の中でもエルモンヒラタカゲロウとタニヒラタカゲロウの区別以外は簡単にできる。

ところが、外見からは同種類と想像できない2種類を1月27日に捕まえた。右側の写真はユミモンヒラタカゲロウである。左側は??「足の模様がぜんぜん違うじゃん??」と...



検索表に従うと、腹部第一節のエラは二節とほぼ同じ大きさ、エラに赤紫色の斑点がない、頭部前方の斑紋(薄い)からユミモンヒラタカゲロウとなんとなく判断される。

カゲロウは幼虫の時期に10回以上の脱皮をすとされるので色が薄いのはそのためか?他の種類でも色が白くて透明がかったものを見かけることが時々ある。

